

外国人観光客の増加を見据えた取り組みの実現を目指して

地域の人との交流で得られる感動を 価値ある商品として届けるために



市では、平成30年度事業として、近年増加傾向にある訪日外国人観光客の誘客に向け、市独自の価値や魅力に共感してもらえる滞在プログラムの開発を目的とした「訪日外国人誘客事業」を行いました。今月号では、今回の事業から見てきた、郡上市における外国人誘客の可能性について特集します。

※この写真は、新しい観光コンテンツを体験する海外旅行会社のみなさんです。

市では、目的地として郡上市を訪問してもらえるよう、旅行会社を対象に郡上市の魅力を知ってもらおう招へい事業を行っています。

訪日外国人の旅行が 団体から個人へとシフト

郡上市では、八幡町の市街地で外国人観光客を見かける機会が増えてきました。団体で歩いている外国人もいますが、個人や少人数のグループで訪れる人も増えています。また、市内のスキー場へも、海外から多くの個人の観光客が訪れるようになりました。日本人を含め、観光の主体が団体旅行から個人旅行にシフトしており、これまでの観光分野に限定されない幅広い視点での体験等のプログラム提供が求められていると言えます。

市街地の暮らしと つながった価値の共有

観光は、地域の中で光り輝いているものをどのように見せるか、また、体験してもらうかが大切な要素になっています。

「訪日外国人誘客事業」では、これらを実証するため、市と地域連携協定を締結している岐阜大学の日本語・日本文化教育センターとともに、郡上市へ訪れる外国人観光客のための商品づくり事業を実施しました。具体的には、「ガイドと共に周遊する郡上八幡散策商品」の開発に向



平成30年度に開催したガイド養成講座

け、新町、橋本町、中愛宕町の各エリアにおいて、モデルコースづくりを行いました。また、外国人観光客を案内するためのガイドの養成にも着手し、「ガイドの養成講座」には、多くの市民のみなさんに参加いただきました。参加者の三島久美子さんは、「ガイド自身が、地元の暮らしや文化をしっかりと学ぶことが大切だと再認識しました。実際に郡上八幡のコースを巡った実践講座では、地元の魅力を再発見でき、楽しかったです。地域英語ガイドを目指したいと思います。」と、地域の歴史や伝統文化について知識を深めること、そして、地域に根ざした暮らしを伝えることの必要性を実感され、外国人観光客へのガイドに意欲的となりました。

留学生が見た郡上の魅力と今後の可能性

「訪日外国人誘客事業」では、外国人観光客向けの体験プラン等の商品開発に関心のある地元事業者や個人のみなさんに参加を求めたほか、留学生と実際に現地を歩き、観光施設や商店を個別訪問して情報収集やミーティングを行いながら、観光モデルコースづくりを行いました。

岐阜大学日本語・日本文化教育センターの土谷桃子教授は、「モニターとして郡上を訪れた留学生は、郡上の文化と自然を満喫し、出会ったみなさんと温



岐阜大学の留学生が八幡市街地を巡る観光モデルコースづくりのモニターとして参加されました。身近な暮らしの中に外国人にとっての感動があることを再確認しました。

かく飾らない交流を楽しみました。彼らが感激した郡上ならではの深い文化は、各国からの旅行者にとつても、素晴らしいものに違いないという思いを強くしました。」と留学生がかかわることの意義を強調されました。

地域全体で観光地経営を行う組織づくり

市では、観光施設を周遊してもらうコースだけではなく、滞在して体験をする、そして地元のみなさんと交流する「体験交流型観光」に力を入れていきます。令和元年度では、「観光立市郡上推進事業」として、DMO（郡上市全体で観光地経営を

進める組織）の形成に向けた取り組みを本格的にスタートします。

また、市内アウトドア事業の体験プログラムなどの情報を、なるべく1カ所で提供できるよう、ワンストップ窓口の設置や、郡上市に関心を持つ人、また、関心を寄せる可能性のある人など、特定の人に絞り込んだ情報発信を行っていく作業にも順次着手していきます。

つながり続け再訪へと導くことの必要性

国内でも、特定の地域では、

観光地に人があふれ、地元住民の日常生活に大きな影響を与える「オーバーツーリズム」が問題となつていきます。市内では、徹夜踊りの時期など一時的に観光客があふれることもありすが、全体としては、過剰に混雑する状態ではないため、年間を通じて外国人を含めた多くの観光客に来訪していただきたいと願っています。ただし、これらの観光は、やみくもに観光客を増やすという発想ではなく、より多くの市民の手で地域の価値を高めながら、郡上に訪れる人とのつながりを持ち続け、再

訪を促していく取り組みが必要です。そのためには、単に効率的に大量にお客さんが訪れるよう、販売戦略を行うだけでなく、得られたデータの分析や評価を行い、次の「観光戦略」を描くことが求められます。

市では、観光施策を担う観光部の体制を強化するとともに（一社）郡上市観光連盟の事業推進の支援を充実させるなど、外国人観光客への対応を含めた観光施策により一層力を入れていきます。

問 商工観光部観光課
67・1808

ガイド養成講座で地域の魅力を再発見

Gujoinus (グジョイナス)
たかだ ゆか
高田 由香さん



私は8年ほど前から郡上市のインバウンド事業（訪日外国人誘客事業）にかかわるようになりました。オーストラリアでの暮らし、インドネシア、北欧などで暮らすように旅した経験を基に、故郷郡上での外国人向け滞在・交流型旅行プランの提供を目指しています。

昨年度、インバウンド事業に参画して心に残っているのは、モニターツアーに参画された地元商店の人の「普段の作業をこんなに喜んで見てもらえるとは意外！」に代表される反応、ガイド養成講座参加者の「地元の魅力を再発見した」「もっと地域のことを学び、将来英語ガイドをしたい」などの声です。ここに、郡上におけるインバウンド事業の大きなヒントと可能性が秘められていると思います。

豊かな自然とともに郡上の四季折々の暮らし、代々受け継がれてきた歴史文化こそ郡上の宝です。これからの課題は、①魅力ある「体験・交流型プラン」の商品化 ②地元英語ガイドの育成と登録システムづくり ③宿泊・観光施設や飲食店などとの連携を考慮した①②のネットワーク化です。これには地元人財の活躍が要です。この夏、郡上おどり会場で、英語での外国人客へのアンケート調査を行います。事前講習会を実施しますので、参加を希望される場合はご連絡ください。